

【橋梁新設・維持管理設計法の理解深める オリコンサルが講演会】

橋梁新設・維持管理設計法の理解深める

オリコンサルが講演会

オリエンタルコンサルタツは18日、東京都渋谷区の同社関東支店で、「橋の新設・維持管理設計法」に関する講演会を開いた。写真。長井正嗣長岡科学技術大名菅教授を講師に招き、国内の道路橋設計、維持管理で本格導入が期待される新しい設計法などを学んだ。

橋梁関係の業務に従事する約150人の技術者が参加した。橋の新設・維持管理設計法に対する理解を深めるとともに、今後の業務や研究開発への活用方法などに関する質疑応答を行った。

2部構成で開催し、第1部は新設設計に使う設計法とし



て、日本の道路橋設計基準でも導入が予想される性能照査設計法、限界状態設計法について、概要や現行の許容応力度法との違いなど、欧米の動向や具体的な設計例を交えて解説した。

第2部は、主に維持管理の設計法に焦点を当て、米国の維持管理設計の評価手法、手順などを説明した。また、過

去の橋の重大事故、落橋を例に、要因分析と事故を避けるための維持管理手法に関し、長井名誉教授のこれまでの研究成果や最新の知見、取り組みなどを紹介した。